

令和2年度第2回月形町地域公共交通活性化協議会 顛末

1 開会

2 町長挨拶

3 議事顛末

(1) 会長、副会長の選任、部会の設置について

会 長 堀委員 (月形町副町長)

副会長 平吹委員 (月形商工会経営指導員)

部 会 設置承認

(2) 月形町地域公共交通網形成計画の概要説明について

【質問・意見等】

なし

(3) J R 札沼線代替バスの運行状況について

【質問・意見等】

なし

(4) バスベイ設置の状況報告について

【質問・意見等】

なし

(5) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

(堀会長) 今後運輸局へ提出するにあたり、運輸局と事務局とで調整し提出していくことの承認をいただきたい。

【質問・意見等】

(杉澤委員) 参考までに事業評価を説明させていただく。事業評価は、A～Cのランクで評価することとなっているが、C評価となったからと言って、補助を打ち切る等の対応を取ることはない。あくまで事業年度内の評価をすることを目的として実施しているものである。

そのほか、質問・意見等なく、この内容で承認。

(6) 予約運行型乗合交通の実証運行について

(新道係長) 本協議会の承認が必要な事項として、実証運行の延長、延長に必要なアオヤナギ観光バスの21条許可申請、令和3年度地域公共交通確保維持改善事業計画の変更について事務局と運輸局が進めることの承認の必要がある。

(堀会長) 現在2期目を実施中であるが、コロナウイルスの影響もあり利用状況も低迷し

ており本格運行の判断は難しい状況である。については、冬期間の利用状況を確認するため、アオヤナギ観光バスによる第3期実証運行を実施することとし、この後の部会でもご意見を貰い進めていきたい。事業延長等の承認事項については、承認をいただきたい。

【質問・意見等】

(岸委員) 私は他の「まち」の委員でもあるが、ある「まち」でも乗合タクシー事業の実証運行を行い2回やって1回目は0人、2回目は動員を掛けて5～6人の実績であった。事前のアンケートでは使いたいと回答があり、潜在的なニーズはあるとの数字から始めた事業であったが、実績は伸びなかった。結局その「まち」は、事業実施を止めた。今は自家用車で間に合っているのであれば、やらない事も判断である。ただし、未来永劫やらないでは無く、5年後、10年後に考えるタイミングがあっても良い。また、制度を必要とする人がいるのであれば、個別の支援をどうするかは考えないといけない。

22Pのアンケートで、「もし乗合ハイヤーを使っていなかったらどうやって移動していましたか」を追加してほしい。車が無くて、この制度が無く外出を止めてしまう方がいるのかどうかを把握する必要がある。

今年はコロナの影響もあり、これだけでは判断出来ないなので、この結果をもって止めるという判断は、やらないほうが良い。

(堀会長) 見込めないのを無理して行うのも如何かなとも考える。この後の部会において、その当たりのご意見をいただきたい。

そのほか、質問・意見等なく、この内容で承認。

(7) 今後のスケジュール

事務局(新道係長)から説明

(新道係長) 次回協議会は、令和3年1月の予定となっている。

4 その他

【質問・意見等】

(岸委員) 本日の会議を札幌からJRと代替バスを利用して参加している。北海道医療大学駅までは6両編成で学生が多く乗車していて、ここまでは多く利用されていることがわかった。駅から出てもすぐバス停が見えて、乗り換えがわからなくなることもなかった。低床のポンチョの乗り心地も良く、総じて悪くない評価である。また、お昼にオムライスの店に行ったが、町中のバス停を降りるとすぐお店があり、これが駅まで行ってからお店まで行くとなるとちょっと距離がある。JR時代とは違い、こういった利便性の向上、お店へ行きやすくなる効果などがある。これからは、こういった効果を利用者に浸透させること、パークアンドライドなどの利用で地道に利用者を増やしていくことを続けていただきたい。また、こういった会議にも交通を使って参加するなどの取組を進めていくことも大切だと考えるので、会議の時間設定など取り組んでいただきたい。

午後15時00分終了